令和3年度　武生商業高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導	授業の予習・復習や課題に取り組むことで家庭学習習慣の確立を図る。	生徒・保護者・教職員のすべての数値が目標指数を達成している。ただし、「学習状況調査」では家庭での学習を「ほとんどしない」と回答する生徒が約28%いた。進路が決定し具体的な目標をなくしている面を考慮しても、家庭学習が充実しているとは言いがたい。3年生に関しては自らの課題学習の深化のために、家庭学習が欠かせないことを認識させたい。今後も家庭学習を「ほとんどしない」の回答数を減らすことが課題である。	家庭での、日頃の予習・復習といった学習がいかに大切であるかということを、ことあるごとに生徒に理解させ、その積み重ねが考査対策・検定取得の基本であることを体感させなければならない。そのために、小テストの活用など家庭学習がすぐに目に見える形となるような工夫をし、達成感をより多く体験させるような指導を全校で取り組んでいく必要がある。
	主体的、対話的で深い学びの授業実践を行い、生徒が自ら考え課題解決を図る力を育成する。	生徒の指数が99．2%と目標指数を大幅に超えた形で達成している。生徒は主体的、対話的で深い学びの授業実践において抵抗はなく、むしろ積極的に意欲的に取り組んでいるといえる。また、話し合う活動、自分の考えを文章にする活動、説明・発表する活動を各教科で積極的に進めた成果だともいえる。ただ、教職員の指数が64．3%にとどまり、教科・科目によって、不十分なものもある。教科の特性などにもよるが、今後も全教科が授業の工夫を重ねることを怠らず、生徒が主体的に活動する授業にしていくことが必要である。	教室にあるスクリーンやプロジェクタの利用が徐々に増えていることも一助となり、生徒が主体的に授業に取り組む機会が増えてきている。また、生徒全員がタブレットを持つことにより、さらに主体的に学ぶ環境が整った。現在行っている「ICTフォーラム」という校内研修をより充実させて、生徒が主体的に学ぶ新しい授業展開の研究を続けていきたい。
2 生徒指導	家庭と連携して遅刻指導を行い、基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒・保護者・教職員とも目標指数は上回っている。しかし、昨年より遅刻者数は若干増えてきており指導が必要になってきた。基本的生活が崩れるとすべてにおいて乱れる可能性がある。集会指導や登校指導などを改善し、継続的な取り組みが必要である。	遅刻指導が生徒の基本的生活習慣を身に付けさせる第一歩であるとの認識のもとで、今後も現状が当然の状態として定着するよう取り組む。生徒に対しては、あらゆる機会をとらえながら指導を継続するとともに、保護者に対しては遅刻指導の意義を理解し、協力を得られるよう努める。
	頭髪・服装について全教職員の協力と家庭との連携を図りながら指導を行い、ルール遵守の大切さを理解させる。	生徒・保護者・教職員ともに目標指数を上回っているが、昨年より少し指数は下がってきた。生徒の頭髪や服装は全体的に落ち着いた状態を維持している。また、教職員の取り組みが一昨年は100%だったのに対し年々下がってきているのが気になる。生徒への指導が難しくなってきているが、教職員全員での取り組みたい。また、服装頭髪に関する規範意識の低い生徒や繰り返し指導を受ける生徒に対する指導が課題である。	全教職員の共通理解と協力のもと、家庭との連携を図りながら指導を継続していく。注意・指導を繰り返し受ける生徒については、個に応じて指導の方法等を工夫・改善したり担任と協力したりして、粘り強い指導を行う。
3 進路指導	生徒、保護者が個々の進路希望に応じて進路情報を調べたり、研究したりできるように支援する。	生徒・保護者・教職員ともに目標指数を達成している。さらに、ここ3年間で年ごとに向上しており、各々で積極的に進路情報の収集を行い進路先研究を主体的にできるようになっていると思われる。担任の先生を中心とした教職員と生徒との進路面談等による情報提供や適切なアドバイスが結果に繋がっていると考える。コロナ禍によりオンラインでのオープンキャンパスや説明会、入試が増えてきており、利用方法等情報提供の工夫が今後さらに必要である。	ガイダンスや保護者会等保護者に進路情報を提供したり支援できる機会は限られている。最大限に活かすためにも各学年に応じた適切で最新の情報を蓄積し、支援していく必要がある。入試情報はもちろん奨学金制度の最新の情報の提供を行う。 学校ホームページを利用して進路だよりの発行やタブレットを利用した情報収集や情報発信を行う。
	学校の実情や地域を意識した進路情報の提供、および大学入試改革など最新動向に対応した支援など、進路ガイダンス・進路説明会の充実を図り、より効果的な内容と情報提供方法を検討する。	生徒・保護者・教職員とも目標指数を達成し評価が高い。コロナ禍で就職活動が制限されたり、大学入試改革で入試方法の変更があるなか、3年学年会と協力して情報提供やガイダンスを行うことで結果に繋がった。次年度も学年会との協力を継続していきたい。「あまり参考にならず、進路決定に活かせなかった」と回答した生徒と保護者が10名前後おり、進路ガイダンスや説明会がより効果的になるよう内容を整理し、改善することが必要である。	1,2年生は、1月下旬に進路希望調査を実施する。各種のガイダンスやセミナーの内容をより効果的になるように企画し、希望調査をきっかっけに進路意識の向上に繋げる。次年度に向けて、各学年各学期に相応しいガイダンスや説明会は何かを考え内容を検討する。さらに、各学年会との連携を深め情報の共有と適切な進路指導を確立していく。
4 保健管理	健康的な生活に配慮できる生徒の育成をめざす。	生徒・保護者・教職員すべてが目標指数を達成している。教職員の自己評価が令和2年度と比べてやや下がったのは、新型コロナが2学期中やや収まったことと関連があるのかもしれない。オミクロン株が流行を始めているので、その対策が必要である。 生徒の朝食摂取に対する自己意識は令和2年度とほぼ同じである。保護者の我が子に対する評価とやや開きがある。保護者の「もっとちゃんと食べなさい」という声が聞こえてくるようである。	教職員だけでなく保護者も、生徒の健康管理・生徒への健康指導の大切さを再認識するために、タイミングをとらえて指導をすることができるための援助として、定期的に「保健だより」「相談室だより」を発行し情報提供に努めていく。教職員が意識を高めそれぞれの立場で「個々」の生徒と関わっていくことが必要である。オミクロン株の感染力に対し、やはり基本的な「マスク」「手洗い」「消毒」の指導が必要である。
	清掃指導を徹底し、ゴミの分別や身の回りの整理・整頓に留意させる。	生徒・保護者・教職員すべてが目標指数を達成している。昨年度と同様に、教職員からの観点（1）と生徒からの観点（2）の数値にやや開きが見られるが、その差が年を追うごとに小さくなったのは望ましい。ゴミ分別は、ここ5年間のデータでは、教職員・生徒両者とも97%以上が意識していると回答している。ただ、清掃時間にゴミステーションへ持ち込まれるゴミの様子からは、ペットボトルのラベルや洗浄がやや甘い。	観点（2）については、6校時終了後、生徒が清掃に取りかかることを全校で継続していくことで、微増ではあるが向上するのではないかと思われる。ゴミステーションでは保健委員が中心となり分別について継続して具体的な指示をしていく。各教室、職員室のゴミ箱や掃除用具を確認し整備する。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
5 図書指導	「朝の一斉読書週間」を、年5週実施する。	生徒・保護者・教職員すべてが目標指数を達成している。正副担任を中心に多くの教職員が指導に関わっている成果と考えられる。また、「朝の一斉読書」に対する生徒と保護者の肯定的回答数は昨年度と同様の高い水準であった。	引き続き「朝の一斉読書週間」を実施し、本を手に取る機会を設ける。また、図書委員が中心となって読書の意義と必要性について積極的に広報し、より充実したものになるよう取り組む。
	「図書館だより」を活用して読書意欲を喚起する。	「1冊以上読んだ」と答えた生徒が全学年とも目標指数に達している。定期的に図書館だよりの発行や一斉読書を行うことで、年間を通して本に親しむ機会を設けているからだろう。今後も継続した取り組みが必要であろう。	「図書館だより」の定期的な発行を継続する。また、図書委員会活動を活発化して図書貸し出しを激励する。今年度同様、「ハロウィン、クリスマス、バレンタイン」等で特別貸し出し企画を行う。さらに、学級文庫の設置などの取り組みを継続することにより読書意欲を喚起させる。
6 PTA活動	PTA活動（総会・各部の活動）をより充実させ、活性化する。	PTA活動の案内や内容に関するすべての評価が目標指数を達成している。今後もPTA活動の周知と参加への呼びかけを徹底させていかなければならない。	PTA総会や各部会の活動に参加しやすい内容や環境を整え、企画内容を広報していくことが必要である。
	保護者に学校の教育活動を積極的に広報する。	「PTAだより『商魂』を「読んだ」・「教育活動を知るうえで役に立っている」ことについて、目標指数を達成しており、「商魂」が広報紙としての役割を十分果たしていると考える。今後も保護者に役立つ情報を提供していかなければならない。	本校教育活動に関する情報を充実させ、保護者会に合わせて保護者に配布できるようにする。また、広報誌を充実させるために、PTA教養部会が中心となり保護者の要望を反映させていく。
7 資格取得 の奨励	課題・補習などを併せた適切な進度計画により、各科目における目標資格級の取得率向上を目指す。	今年度も、全ての評価が目標指数を達成している。教職員および生徒の評価はともに昨年と同程度であり、それぞれ100%と81．9%と、安定していると言える。また、保護者の評価は、昨年度の91．7%から93.．3%へと1．6%微増した。コロナ禍は継続しているが、例年の検定試験対策が行われたことと、商業高校としての検定試験の意欲と取組みが定着し、資格取得奨励の成果は、継続して安定していると考える。本校における検定取得に関する取組は、生徒・保護者に理解されている。これからも、商業学科として目標値80%以上を目標に取り組んできたい。	例年以上に、補習や個別指導に対しても手厚く援助している。商業という専門科目は、時代に対応して変化していくので、商業科教員も常に最新の情報や知識を教えられるよう、教材研究等に取り組まなけらばならない。また、福井フューチャーマイスター制度を活用し、資格取得に対する意欲向上を目指していく。商業学科の大きな目標として、生徒一人ひとりが、複数の資格取得が可能になるよう、商業科教員が協力し合いながら、指導に努めていきたい。
8 いじめ問題	「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」生徒を育成する。	今年度も生徒・保護者・教職員すべてが97%を超える比率で肯定的評価をしている。ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動て通じて思いやりや助け合いの心を育成してきた。昨年の数値よりも上昇し、目標指数も大きく上回っているので、目標を達成したと考える。	結果に表れた高い自己評価を維持するだけでなく、これまで以上に人権教育を計画的に実施するなど、さらに推進していく。また、学校行事により、人間関係を学ぶ機会が多いことが、好結果に反映していると考えられるので、今後も自主的な集団活動を継続するなど、特別活動のさらなる充実に努めていく。
	いじめの未然防止に努める。	保護者・教職員とも目標指数は上回っている。教職員の評価が昨年度より2%上回ったが、保護者の評価が85.8%と昨年より約4%低くなった。いじめの未然防止のためのさらなる取り組みが必要である。	好ましい人間関係の構築に向けてのきめ細やかな支援を続けるとともに、いじめを許さない意識･態度の育成のための啓発活動を引き続き行っていく。また、相談室だより等を活用した学校の取組み状況等を伝える工夫を今後も継続的に行っていく。
	いじめの早期発見や早期解決に努める。	学校が認知したいじめは0件だったこともあり、保護者・教職員すべてが目標指数を達成している。しかし、昨年度と比較すると、保護者の数値は若干下がってきている。教職員の多くは、いじめの早期発見・早期解決に努めていると考えているものの、生徒・保護者はそう考えていないというのが現状である。	些細と思われることでも、教員間で気がかりな生徒等の情報を共有し、学年会や保健部等と連携しながら、早期発見・早期解決に努める。また、今後も引き続き、学校での取組実施の際に、生徒への目的・意義の周知や相談室だより等を活用した保護者への連絡等に努めていく。